（様式第８号）

事業報告書（令和４年度）

事業名　「『岡山から日本を元気に！』プロジェクト
～ESD for SDGs；ユース世代を含む好事例の循環を目指して～」

団体名　特定非営利活動法人国際協力研究所・岡山（NPO ICOI）　担当者名　竹島　潤

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

★「岡山から日本を元気に！～グローバル実践～」

（１）International Meeting 2022 (Summer / Winter)

①R4.7.16　オンライン Meet　　②R4.12.17　オンライン Zoom

NPO・学校連携事業として、夏は岡山市内４中学校から約 30 名の中学生＋７ヵ国 9 名の海外ゲスト、冬は５校約 20 名の中学生＋９ヵ国 15 名の海外ゲストが参加して、英語交流活動に取り組んだ。参加者はブレイクアウトなどのグループ活動を中心に、自己紹介・アイスブレイキング・岡山や自分の学校の自慢・お互いの国の文化について情報・意見交換し、多文化共生の感覚を高めた。

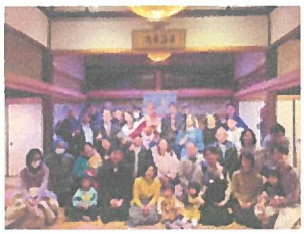
（２）International Friendship Party @西大寺

R5.2.18　３年ぶりに「はだか」の参加を伴う「西大寺会陽はだか祭り」の観覧と参加を行った。ネパール、トルコ、ラオス、フィリピなどの出身の留学生や在住外国人の方々に文化交流をアテンドし、友情を深めた。本堂近くまで参詣することができたので、歴史と文化を身近で感じることができた。

（３）“Friends Indeed” Program

①R5.1.22 ネパール文化体験会@蔭涼寺

外務省「日本・南西アジア交流周年」に係り、ネパール短編映画「カタプタリ」鑑賞、ネパール大衆歌謡歌手・スンダリミカ氏によるお歌の会、そしてネパールチャイとナンロールと、芸術と食を通した文化体験の機会を市民に提供した。ネパールの自然や都市化する中での人々の葛藤、そして懐かしい風景などに参加者は心を癒されたであろう。一般・関係者約 30 名＋ネパール人留学生 6 名の方々が参加した。



②R5.2.6～3.6「トルコ南部大地震緊急支援プロジェクト『今、みんなで！』」

現地で起きた複数の巨大地震による被害を案じ、岡山の６中学校及び６飲食店等と連携による募金・応援メッセージ・青少年交流から成る支援プロジェクトを始動した。数年前のトルコ・ギリシャ沖地震緊急支援プロジェクトの経験を生かし、日本とトルコの 130 年以上に及ぶ友好親善を促進する機会となった。

（様式第８号）

★「岡山から日本を元気に！～ユース実践～」

（１）気候変動学習会　オンライン Zoom

R4.10.29 環境教育に取り組む認定 NPO エネミラと連携し、中・高校生・関係者等約 20 名で実施した。SDGs 視点で気候変動や身近な環境問題への情報、意見交換を通し、参加者それぞれが今後の取組へのブレインストーミングと決意表明を行った。

（２）NPO・学校連携による芸術鑑賞授業＠井原中他

R5.2.9 東日本大震災・原発事故後の現地で動物や自然、人々など「命」に注目した芸術創造活動を画家・山内若菜氏をお招きし、過去に岡山市内中学校で取り組んだ連携事業の知見を生かした平和教育の取組として約 150 名を対象に行った。鑑賞授業における中学生たちの声を公民館講座などで共有し、中学生世代の感性や気づきの鋭さを一般の市民の方々に紹介・共有した。

★「岡山から日本を元気に！～ローカル実践～」

（１）東日本大震災現地ボランティア活動＠福島県双葉郡浪江町

R4.11.5 震災 12 周年を前に、あらためて被災地・復興への思いに寄り添うべく、「友情ダルバート」プロジェクトとして、浪江町の帰還者、復興作業に従事する方々などを中心に、約 60 名にネパール家庭料理を無料提供した。（株）イオン東北・浪江店との連携を通して、町の復興にスーパーやお店がいかに重要な役割を持っているかを再確認した。

（２）ICOI 設立 12 周年新生・記念大会 特別講演会

R4.11.20　岡山国際交流センター・レセプションホールにて、岡山大学教育推進機構より中山芳一准教授をゲスト講師に特別講演会を行った。関係者および一般市民約 40 名が参加した。講演テーマを「社会人の非認知能力の向上について」とし、当 NPO 活動の意義を客観視するだけでなく、さまざまな社会・ボランティア活動に関心を持ったり、取り組んだりしている参加者と貴重な時間を共有できた。

２．ESD の視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

人権・平和・国際・環境などの持続可能な社会づくりに関わる課題と SDGs を関連付ける姿勢を、参加者・主催者のみならず、本取組を知った様々な一般市民の方々などが共有することができた。また、それにより自ら考え・行動する力や多面的総合的に考える力の向上に寄与できた。

②どのように学び合いを取り入れたか

現地現場・当事者の視点や情報を重視しつつ、参加者や学習者が「質の高い教育」（SDGs4）として事後に意義を理解できるよう、振り返りや言語化、参加者同士での感想共有などの時間を持つようにした。また、ユース世代の考えや取組を発信することで、世代間交流も促そうとした。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

（様式第８号）

教育現場やNPOのネットワークを駆使し、気づきや学びを得たユース世代が、地域や社会に発信したり、共にいろいろな大人世代を考えたり行動したりする機会を提供できるように努めた。

また、将来的にも地域と世代を越えて、生かされるように取組の様子などをメモ・写真記録したり、広報したりすることも大切にした。

３．取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

新型コロナやインフルエンザなどの感染症予防下の影響も多少あったが、オンラインや分散型などの工夫、このような社会状況であるからこそ、持続可能な社会づくりに繋がるテーマを重視して事業を計画、実施した。

本事業が中高校生や比較的若い世代の社会人などの世代と、ミドル～高齢者などの先輩層からの参加を伴ってできたことは、ＥＳＤ視点でも大切になる「次の世代まで」を意識することとなったと確信している。

４．今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

引き続き、多くの学校や地域（学区）なども巻き込んだ対話型・行動的な事業を推進していきたいと考えている。なぜなら、それが持続可能な地域づくりを下支えすると確信しているからである。

昨年度は「『心の温度』を高める」ことに注力したが、それを引き継いだ今年度は「好事例の循環を目指して」ということで、これまで他の現場や町内、他の団体で取り組んできたことなどを、水平的展開して、さらに波及効果を広げようと努めた。

本市は、「学習都市」として世代やキャリアステージを越えて、「学び続けること」つまり「持続可能な社会づくりに参画すること」をすべての人に可能とする街づくりを目指していると認識している。今後とも、当団体のユニークな事業・活動を通して、岡山地域のESD推進に寄与・貢献していきたいと考えている。